

### 第11回「大谷石・石空間フォーラム」 大谷石の教会でジャズを楽しむ ジャズギタリスト高内春彦ライブ&トークセッション



昨年9月、日本聖公会宇都宮聖ヨハネ教会で、宇都宮出身のジャズギタリスト高内春彦さんを迎え、ソロライブと食事会・トークセッションを参加者82名で行ないました。今回のジャズライブは前回(一昨年8月)開催したカトリック松が峰教会以来2度目。それぞれに大谷石建築の教会空間でのジャズの可能性を探る意味深いイベントです。

演奏終了後、もともと礼拝堂であった愛燐幼稚園の園舎に移り、美味しい食事とコミュニケーションのひと時を。高内さんにとって、このような教会空間での演奏は国内では初めて。「音響もすばらしく満足いく演奏が出来た」との評価をいただきました。参加者からも演奏のすばらしさも感ずることも、教会空間でのジャズに新鮮かつ高い評価をいただき、さらに可能性が高まりました。このようなフォーラムを継続していくことにより、「大谷石の空間」や「大谷石」が私たちにとって身近な存在になって、「宇都宮ブランド」として定着していくことを願っています。



今回のゲストの高内さんは、「HARU」の愛称でニューヨークを拠点に世界的に活躍されており、最近音楽製作やプロデュースも手がけています。シーザーストラスが繰り返す小屋組の厳粛な礼拝堂の空間が、高内さんのギターが醸し出す柔らかな音色と相俟って、何とも言えない心地よい時間を全員が共有できたのではないかと思います。

### よみがえる蔵、消える蔵

南宇都宮駅前の石蔵群が生まれ変わった事を、表紙でお伝えしました。石蔵の街宇都宮の新しい見所がひとつ生まれました。各施設のオーナー達がそれぞれに大谷石の蔵を大切に考えているからでしょう、そこで催されるイベントも、この場所ならではの内容となっています。


されている事もお伝えしなければなりません。桜二丁目にあった酒蔵、清住町通りにあった雑穀蔵。どちらも気が付けば解体されていました。南宇都宮の石蔵群同様、どちらの蔵も可能性を秘めた建物でした。そして同様にどちらの蔵も街の中に埋もれていました。街に埋もれたこれらを、掘り起こして磨いて街の宝とする事も出来ず、埋もれたままにしておく事も出来ず、価値に気付かず破壊してしまう事も出ます。何処にも無い独特な物を取り壊して、何処にもある物を作る。そんな野蛮さに、そろそろ気が付きたいものです。



武井 貴志 NPO法人大谷石研究会理事  
(社) 栃木県建築士会宇都宮支部まちづくり委員会委員長

### 会員紹介

NPO法人大谷石研究会 顧問  
岡田義治 (社) 栃木県建築士会会長



建築を学び、S建設会社で施工技術者を目指した。『摩天楼を築く』という本の影響で、米国の施工組織に関心を持った。その後、事情があって県立高校の教員となったが、思いが通じたのか、NYの世界貿易センター(WTC)の建築現場で研修をする機会に恵まれた。あのツインタワーは、テロで焼失して今は無いが、印象に残る歴史の一コマだった。S建設の友人から、先端の建築技術を聞く度に、距離が大きくなる焦りを感じた。そんな思いから、「よし、友人が前に進むなら、私は過去の歴史へ進もう」、そう決めた最初の研究・著作が『栃木の建築文化ーカトリック松が峰教会ー』だった。ここで、教会建築の歴史や建築史的意義を刻んだ大谷石に出会った。

以来、「大谷石の建築」、「大谷石建築と景観」など、大谷石に関わる調査・研究を進める機会を与えられている。大谷石の歴史的建築は非常に少ないが、今後、大谷石という素材の特性・個性を再発見し、現代建築の中に生かす道を見出すべきであろう。そして、建築と大谷石、大谷石建築と環境、大谷石建築がある景観など、調和を図る課題に取り組むべきである。それが新たな歴史的建築の構築であろう。その仕事をまとめる場が、主宰する「下野建築文化研究所」である、と考えている。

### 「天開山大谷寺のいわれ」

大谷寺の山号を天開山というが、そのいわれは次のようなことであるという。

平安時代の昔、現在の大谷寺のある岩壁に巨大な蜂が巣を作り群生し、人々は一步も立ち入ることができないばかりか、蜂のために里人は苦しめられた。東国を行脚していた弘法大師は、このことを聞きつけると蜂に苦しむ里人を救済するために蜂が巣くう岩壁の所にやって来た。すると、天は暗黒の闇となり、巨大な蜂が群れをなして弘法大師に襲いかかった。しかし、弘法大師は一心にお経を唱えるだけだった。しばらくすると黒雲が去り青空が広がるとともに、蜂も消え去り二度と現れることはなかったとのことである。弘法大師は蜂の住んでいた岩壁に、里人の安寧を願って一夜のうちに千手観音像を彫り、寺を開山した。寺の山号は、黒雲が去り天が開けて青空が広がったことにちなんで天開山とされたという。

### 大谷の民話・史跡あれこれ

茅葺屋根の母屋を今も守り続けている渡辺家住宅は、市の認定建造物の指定を受けており、大谷独特の原風景を保っています。石屋根の薬医門、石塀、両側の石蔵、そしてどっしりとした茅葺の母屋、その背景の屋敷林と、どこか懐かしい景観を呈し、思わず中に引き込まれていくような思いに駆られます。

その後、陶芸家の谷口勇三さんの



塩田 潔 NPO法人大谷石研究会副理事長  
宇都宮まちづくり推進機構大谷石・石蔵部会長

### 大谷石研究会の活動報告

### 第12回「大谷石・石空間フォーラム」 徒歩めぐりin大谷 大谷石の原点と文化的建造物を体感する

昨年11月、大谷石の原点と大谷の文化的建造物を体感すべく「徒歩めぐりin大谷」を、参加者90名で実施しました。最初に訪れた大久保石材店は、母屋に入りますため大谷石の岩盤を切通した際に作った「石室」があり、そのような「離れ部屋」を考えた当時の主の粋な心意気に新鮮な驚きを感じました。また、築170年の母屋は、広々とした土間のたたき、重なり合った真つ黒に煤けた大きな梁、囲炉裏や板の間、格子戸が今でも原型をとどめ大事に使われており、大久保家の家風がしのばれます。

大谷のランドマークになっている屏風岩の石蔵(2棟)は、昨年県の有形文化財に指定されたすばらしい石蔵であり、他に例を見ないほどデザイン性や石工の技術の高さが覗かれる建物です。いずれは国指定の文化財になる価値は十分にあると思われる。

陶遊舎で数々の作品を楽しませていただきました。谷口さんは、朝日陶芸展90特別賞、第2回益子展加茂田賞審査員特別賞や数々の日展入選、県文化奨励賞等の受賞歴の方です。移築保存が望まれている国登録有形文化財の旧大谷公会堂を復元し、いよいよ最終到着点は当研究会の理事長小野口家の国登録有形文化財群。紅葉真っ盛りの庭園、そして長屋門の前庭の広々とした芝生で待っていたのは、会津からわざわざ来ていただいた内海名人の打つ「十割そば」。そして採掘跡で熟成された味がマイルドになった「ワイン」と「生八ッ」でした。これらを堪能した後は、芝生で輪になり大谷の魅力、大谷石の魅力をおおいに語り合いました。

大谷石と共に150年



採掘販売事業部・石材加工事業部・砕石加工事業部  
設計・施工

有限会社 高橋佑知商店  
本社 宇都宮市大谷町350番地  
TEL 028(652)0005(代表)  
FAX 028(652)0192

国登録有形文化財 小野口家住宅  
画廊と庭園



東葉堂  
〒321-0344 宇都宮市田野町885  
TEL 028-652-0407 FAX 028-652-6360

大切にしますパートナーシップ



印刷技術がいかに進歩しようとも  
技術表現の根幹は「心」であると考えます

印刷のご用命は  
株式会社 新光社印刷  
〒321-0811 宇都宮市大通り2-4-1番地  
TEL 028-633-4718(代) FAX 028-637-3981

天然大谷石の美しさを活かしながら  
誰にでも簡単に施工できる石壁材

「カネホン」  
さらに火にも強く、施工が簡単な  
大谷石サイディング

「カネホンS」誕生。

株式会社 KANEHON  
〒321-0345 宇都宮市大谷町350番地  
TEL 028-652-0172 FAX 028-652-0192